

信仰生活の基本を扱う説教の第二回目。今回のテーマは「伝道」です。コロサイ人への手紙を通して、私たちが抱くべき伝道への思い、取り組み方を学びます。

1. 伝道に対するパウロの思い

- 1) 人々に祈りの要請：「キリストの福音を語れるように、祈ってください。」
- 2) 江戸時代、バチスタ・フォン・シドッチも・・・。
- 3) 「神のことばのために、…すべてのことを耐え忍びます。」→Ⅱテモテ 2：9, 10
- 4) 福音を知らない人々に対する神様の思い→Ⅰテモテ 2：4

2. 異教社会で、伝道に取りくむ

- 1) 賢明にふるまう：人々は、私たちの言動に注目しています。
- 2) 機会を十分に用いる：神様が、思いをこえて与えてくださる機会があります。
- 3) 語ることばが親切で…：相手を認め、尊敬することから伝道は始まります。
・アテネの人々へのパウロのことば→使徒 17：22
- 4) ひとりひとりに対する答え方を考える：人間は十人十色です。
- 5) 伝道とは、福音を知らない人を愛し、仕えること

3. ま と め

- 1) 伝道は、教会の仲間と一緒に取り組む働きです。
- 2) 伝道は、神様を信頼し、神様といっしょに行う働きです。